



月刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

94.3.31 No. 3970

事業計画は合理化宣言だ!

JR貨物 本年度事業計画を公表

三月三〇日、JR貨物は、「平成六年度事業計画」を明らかにした。

事業計画には「本年秋に、白紙の見直しに基づくダイヤ改正を実施する」「仕事の仕組み、やり方を抜本的に見なおす」「抜本的な業務の効率化を行い、経営を刷新する」「輸送体系を再構築する」などと全文章を通じて「抜本的見直し」「刷新」「白紙的」との言葉を羅列し、抜本的な大合理化を行なうことを宣言している。

基地統廃合の宣言

第一の問題点は、この事業計画の内容は抜本的な基地統廃合・大合理化を行おうとしていることは明らかである。

事業計画では、輸送体系の再構築だと称して

その第一段階として、平成六年秋に白紙の見直しに基づくダイヤ改正を実施する。

として、

「中長期的に、…これまでの全方位の量的拡大を改め、…重点的・戦略的な営業に転換

する。
ダイヤ改において、コンテナ輸送については、中継の見直しや拠点間流動貨物を対象にした列車の直行化を行う。
車扱輸送については、…閑散線区の輸送について順次収支改善を進め、大量直行輸送一層シフトする。

としている。全方位の量的拡大を改め、重点的・戦略的な営業に転換するという事は、小規模な荷物の取り扱いを廃止しや閑散線区の収支改善によって中継の見直しを行い、大量直行輸送一層のシフトによって、拠点間の途中の基地を廃止するという事であることは、明らかである。

業務の抜本的見直しによって勤乗改悪をはじめとする勤務制度改悪や労働強化を狙う!

第二の問題点は、業務運営の改善と経費の節減という項目では、秋のダイヤ改に併せて、

仕事の仕組み・やり方を抜本

的に見直す等、業務の一層の効率化、組織の見直し、職務の多能工化の推進等を積極的に行なう：
今後の社員の高齢化、五五才到達者の急増、労働時間の短縮等を考慮し、新規採用者の質的・量的確保を図るとともに、技術の承継、業務の繁閑にあわせた勤務体制、出向の促進等に積極的に取り組む

としていることである。

このことは、明らかに四月に施行をにらみ、業務の一層の効率化や多能工化の推進により労働強化を行なうことはもちろんのこと、業務の閑繁にあわせた勤務体制の導入によって、勤乗改悪をはじめ、勤務体制の抜本的改悪を行なおうとしていることは明らかである。

また、出向の促進に積極的に取り組むという事は、首切りの推進に他ならない。

事業計画では具体的合理化事案の内容までは、現在のところ明らかではない。しかし、JR貨物がこの不況下を乗り切るために秋のダイヤ改を突破口により一層の大合理化を画策していることは、明らかだ。JR貨物は昨日の超低額回答をはじめ、徹底的に労働者に犠牲を強いてきているのである。

いよいよ大合理化との闘いが始まった。われわれは、今春季第一波・第二波ストで獲得した成果を、確認し、JR貨物の大合理化攻撃を粉砕するために、貨物支部を先頭に奮闘しよう!

三里塚を朝鮮侵略戦争の出撃基地にするのだ。

(三・二七全国集会勝ち取る)



二九年目の春、三里塚は再び熱い時を迎えた。

反対同盟は、一触即発の「朝鮮危機」の下、重大な決意を固め、反戦闘争の皆三里塚の新たな前進闘争の新たな潮流形成を高らかに宣言した。

反対同盟農民が、腹の底から訴える「細川政権による農民切り捨てを許さない」「緑の農地を取り戻せ」「戦争反対の皆として闘う」という訴えは、全参加者の心をとらえ、共に闘い抜くことを全参加者が誓い、全国に散った。労働連帯を固め、反戦・JR体制妥当へ!